

ぶどうの木



わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネによる福音書15章5節より

「散歩は楽しみ。
休んだことはない。」

「芝生の上を歩くのが気持ちいい。
本当は寝っころがりたい。(笑)」

伊豆高原十字の園

目次

理事長挨拶

施設長紹介

課長紹介

2023年度 十字の園大会報告

各事業所のトピックス

十字の園職員紹介"VOICE"

永年勤続者表彰

幸せレシピ：御殿場編

あとがき





「信頼し合う仲間」

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。

ヨハネによる福音書 15章11節～12節

Suzuki Atsushi

理事長 鈴木 淳司

そんな空気を気にしない犬もいて、関係が修復されることもしばしばで、ムードメーカーは大切だなと思います。しかし、犬同士では解決しない時もあるので、その時はマッシャーが、犬同士の間に入ってそれぞれに関わり、チームがまとまる様に方向付けをして行きます。でも、最終的に納得し合うためには、犬同士の主体性が大切で、犬同士でまとまっています。

マッシャーと犬たちは、冬の厳しい自然の中で共に過ごすために、犬たちの年齢による体力的な変化等で、犬櫓のメンバーも何年か毎に少しずつ変わります。犬を選抜するマッシャーの判断が大切で、犬はマッシャーを信頼し、マッシャーも犬を信頼し、お互いを大切に思いあっています。

私たちにとってのマッシャーはイエス様なのでしょうね。そして私たちはそれぞれの役割を理解しながらお互いに信頼し合うために、仕事で向き合う時間以外にも、お互いを思いあう時が大切なのだと思います。

今年度は、新型コロナが5類に移行し、以前の日常に戻りつつあります。しかし、感染症対策で、他の感染症の数も抑えられたため、感染症全般に罹患するリスクは高まっています。感染症蔓延は、特に若い年代に大きな影響を残したと思います。若い時には、知らない土地を尋ね、初めての体験を友と共有し、大きく成長できる機会となりますが、その機会が奪われました。それは、今後の人生に大きなマイナスになるのではと心配されます。

そうした中、先日過酷な冬を人と共に乗り越える犬櫓（ゾリ）の暮らしを知る機会がありました。犬たちにとって櫓を引かない夏の間は、お互いにリラックスして遊びを通して互いに信頼し、通じ合う大切な時間となっていました。また、犬櫓を操縦するマッシャーとの関係にも大切な時で、マッシャーは犬たちの様子をよく見て、特徴を理解します。

犬同士の関係がぎくしゃくし、犬同士も何となく距離を取って、気まずい雰囲気が生まれます。

機関誌 ふどうの木について

ヨハネによる福音書15章に、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人につながっていれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」とあります。ぶどうの木のたとえ話は、神様と私たちのつながりを表しております。神様との結びつきの中で、皆様と一緒に多くの実を結べることを喜びたい、その様な思いから機関誌名を「ふどうの木」としました。

表紙写真の説明 ～ 散歩 ～

デイサービスの大切な日課。雨の日以外は毎日欠かさず、希望する方々で散歩をします。途中の休憩ポイントでは楽しいおしゃべりタイム。

浜松十字の園

『ポディティブな方を意識して選択』

私たちはいろいろな選択をしながら生きています。その際に「大変だからやめよう、大変だけどやってみよう」「苦手だから避けよう、苦手だから頑張ろう」、どちらを選択するかでその先の開ける未来が大きく変わってきます。出来ないからやることがないからやらないではなく、出来るかどうか分からないけどやってみよう、いろいろチャレンジするといろいろな人の助けが得られ関係が広がり、また、出来ることや得意なことが増えて視野や可能性が広がります。人に対しても面倒だから、苦手だからと「かかわらなければ路傍の人（塔和子氏の詩）」ですが、関わることで「愛おしさを知り、親しみが湧いてくる」と言われますがその通りだと思います。

とは言え、なかなかそう選択できないこともあります。そんな時は早く寝て次の日へと決めることを先延ばしにしています。それでも後ろ向きになってしまうこともあります。出来るだけポディティブな方を、前向きに行動する方を選択するよう意識して歩みたいと思っています。御殿場十字の園から伊豆高原十字の園へ、そして今年4月から浜松十字の園に異動して、関係が広がり、本当に多くのことを得させていただいております。これからもポディティブな道を選択して歩んでいけたらと思います。



Miyajima Katsutoshi

施設長
宮島 克利

伊豆高原十字の園

『試練を通して示されたこと』

4月より伊豆高原十字の園施設長に就任しました山本です。前職の法人本部長に就く前の10年余り浜松十字の園施設長を拝命しておりましたので、3年ぶりの施設長職、更に伊豆高原十字の園での勤務は初めてのことで、加えて単身赴任も初めての経験。心地よい緊張感を持ちながら、早くも半年以上が過ぎました。

5月、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置付けられて様々な制限が解除され、世間はコロナ禍前の日常に戻りつつあります。しかし、コロナウイルスが撲滅されたわけではなく、感染リスクが高い高齢の方々の生活を支援する私たちは感染対策を講じながら、お一人お一人が過ごされてきた日常を速やかに回復させていくことが求められます。このため、「感染者が発生しても感染を拡大させない。生活を止めない。」という方針で取り組んでいます。そのような中、7月下旬から市内で感染者が増大し感染対策も一層気を配っていましたが、9月に施設内でクラスターが発生しました。感染は隣接する2つのユニット内で留まり、感染者がいない階は特別な制限を設けることなく生活を継続し、職員を始め多くの方々のご理解・ご協力をいただき、18日間で収束となりました。このできごとは、十字の園の理念『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります』が具体的な形になって示されたことと思います。今後も理念が体現される経験を職員と共に重ねていきたいと思っています。



Yamamoto Takahiro

施設長
山本 隆弘

第2アドナイ館

『過去から現在（いま）を見る』

4月より第2アドナイ館で施設長に就任いたしました古橋です。よろしくお願いいたします。1953年ディアコニッセが三方原に到着しました。十字の園創設に深く関わりのあるハニ・ウォルフは、その中の一人です。ハニ・ウォルフは考える人、工夫の人だったようです。先輩方からは「ケアに必要な物は、道具を何でも工夫して作る、また、いろいろな物にコロを付けていた」と聞いています。そういえば、十字の園の玄関を入った正面に飾ってある写真たてには椅子に座っているご利用者を押している職員が写っています。今の車椅子のようなものでしょう。でも、なぜ椅子を移動できるように作ろうと思ったのか。おそらく、足の悪い方は移動するときの苦痛があることでしょう。苦痛から動作がゆっくりになってしまうので、皆に迷惑をかけてしまう、職員に面倒をかけてしまうと考えた方がいることを知ったため、椅子にコロを付けたら苦痛なく移動でき、誰に遠慮もなく生活が楽しめるようになると思ったのではないかと想像します。

さて、2023年となり、高齢者への理解をたくさんの方が持てるようになりました。たくさんの方の情報とたくさんの方の知識もあります。しかし、現在でもやはり、かつてのハニ・ウォルフが考えたように、なんでそれが必要と思ったか、ご利用者の生活がより良いものにつながるのか、現在の私たちも同様に考えていく事が大切だといえます。



Furuhashi Mieko

施設長
古橋 美恵子



Shigenaga Hitomi

地域サービス課長
重永 仁美

伊豆高原十字の園

『受け継ぎ 引き継ぎ 繋ぐ』

18歳の時、我が家では実兄の障がいと既に福祉のニーズがあり、進学先は福祉学部と暗黙の了解でした。浜松十字の園は地域の強いニーズから建立されました。20年後、この伊豆においても同様でした。1981（昭和56）年この伊東の地において「期待と夢」を抱いて伊豆地区初の福祉施設十字の園の挑戦が始まりました。入浴サービス・配食サービス・介護タクシー・単独介護予防事業等々、その時その時のニーズに合わせてサービスが開始されました。

措置の時代から介護保険の時代へと移り変わって少し経ってのことです。「十字の園だからって、あぐらをかいてんじゃないよ！！」

施設の名入りの送迎車が利用者の隣家の庭に乗り上げてしまい謝罪に出向いた時の第一声がこの言葉でした。きれいに整備されて可愛い花庭。その家の人は不在であったために、そのまま帰園してしまい向かいの家の人からの情報で怒りはMax。逃げていったとされました。

施設入居者への支援が時代と共に施設を利用する地域住民への支援へと広がりをもち、私たちの働きが評価されるようになりました。

一人一人の行動が「十字の園」として大きな責任を持つことは勿論のこと、事態後の対応で善し悪しが決まって来るわけです。十字の園大会の主題である「福祉への挑戦」。多方面での挑戦。時代が移っていても、若い力と能力で挑戦し続けて行ってほしいと思います。

法人本部

『変わりゆく労務環境の中で』

私が十字の園で労務の役を拝命して、十数年経ちました。労務管理を通じて色々と見てきましたが、私たちの労働環境は現在進行形で大きく変わりつつあります。年功序列型の減私奉公的な働き方からワークライフバランスを重視した働き方に舵を切った働き方改革や新型コロナがきっかけとなったリモートワーク、AI・ロボットの活用やデジタル化を中心としたDX化が良い例だと思います。難しいと言われていた事がAIやロボットを活用して人に頼らなくても出来るようになり、また、職場に出勤して働くという概念が変化したことで、人手不足やワークライフバランスの推進に役買っておりますが、その反面、コミュニティの貧弱化やAIやロボットに仕事を奪われつつあるのも事実です。しかし、そんな世の中の流れの中であっても、人と人とのリアルな関わり・関係性によって労務は成り立っており、それこそが労務管理において重要なウェイトを占めているのだと私は思います。いかに世の中の労働環境がAIやロボット等に置き換わり、効率化やデジタル化が進もうとも、人と人とのリアルな関わりが置き換わる訳ではないと私は思います。十字の園は人と人との関わり大切さを聖書や理念を通して表現されています。これからの十字の園に大切な事は、変わりゆく制度や世の中であっても流れに飲まれずに人との関わりを大切にしていける事ではないでしょうか？

法人本部

『福祉サービスを継続するために』

保育士から十字の園の事務職（経理・財務）として就職し気が付けば14年が過ぎました。事務職の経験が少なく不安いっぱいな日々でしたが、素晴らしい先輩に支えられ働くことができています。

コロナの影響は緩和されつつあるものの、さまざまなコストの上昇が加速し収益性を圧迫している状況にあります。このような状況下なので十字の園も利益は減少していますが、各種補助金などにより法人全体では、黒字をキープできています。全国の特養の経営状況は過去20年間右肩下がりであり、前年度は全国で4割超がすでに赤字となっています。

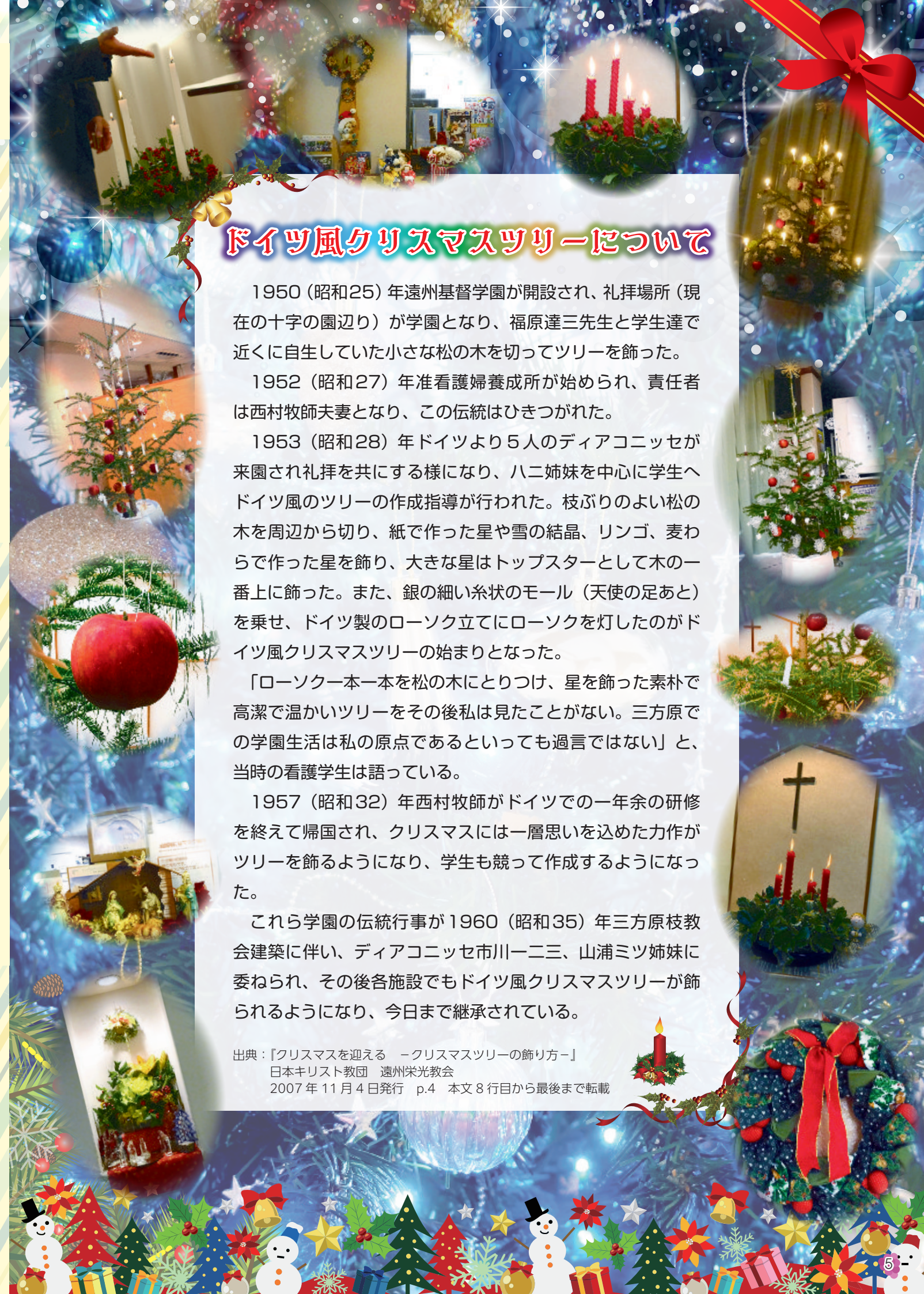
利用者・職員・地域の皆様からも十字の園なら安心だと言ってもらえるような経営を今後もしていくことが重要であります。そのためには事業を継続させること、一定の利益の確保は必要だと思います。

決算書から課題を読み取ることが一定の利益の確保へのスタートだと考えます。



Suzuki Hiroaki

経理課長
鈴木 宏明



ドイツ風クリスマスツリーについて

1950（昭和25）年遠州基督学園が開設され、礼拝場所（現在の十字の園辺り）が学園となり、福原達三先生と学生達で近くに自生していた小さな松の木を切ってツリーを飾った。

1952（昭和27）年准看護婦養成所が始められ、責任者は西村牧師夫妻となり、この伝統はひきつがれた。

1953（昭和28）年ドイツより5人のディアコニッセが来園され礼拝を共にする様になり、ハニ姉妹を中心に学生へドイツ風のツリーの作成指導が行われた。枝ぶりのよい松の木を周辺から切り、紙で作った星や雪の結晶、リンゴ、麦わらで作った星を飾り、大きな星はトップスターとして木の一番上に飾った。また、銀の細い糸状のモール（天使の足あと）を乗せ、ドイツ製のローソク立てにローソクを灯したのがドイツ風クリスマスツリーの始まりとなった。

「ローソク一本一本を松の木にとりつけ、星を飾った素朴で高潔で温かいツリーをその後私は見たことがない。三方原での学園生活は私の原点であるといっても過言ではない」と、当時の看護学生は語っている。

1957（昭和32）年西村牧師がドイツでの一年余の研修を終えて帰国され、クリスマスには一層思いを込めた力作がツリーを飾るようになり、学生も競って作成するようになった。

これら学園の伝統行事が1960（昭和35）年三方原枝教会建築に伴い、ディアコニッセ市川一二三、山浦ミツ姉妹に委ねられ、その後各施設でもドイツ風クリスマスツリーが飾られるようになり、今日まで継承されている。

出典：『クリスマスを迎えるークリスマスツリーの飾り方ー』
日本キリスト教団 遠州栄光教会
2007年11月4日発行 p.4 本文8行目から最後まで転載

2023年度 第27回

十字の園大会/大会報告

(担当：松崎十字の園)

主 題 創立の精神から新たな福祉に挑戦
～ 既に据えられている土台の上に ～

テーマ 『コロナ禍における理念の実践』



2023年10月19日（木）4年ぶりの参集形式としての十字の園大会が、松崎十字の園主催で開催されました。今年度のテーマは『コロナ禍における理念の実践』と題し、各地域、拠点において、新型コロナウイルスの蔓延、その対策、対応を経験し、様々な困難を乗り越えてきたこと、十字の園の理念である「夕暮れになっても光がある」「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を具現化していくために、偏見や差別、間違った考え方などをせず、ただ目の前にいる方々に積極的に歩みより、必要な支援を届けること、おひとりおひとりの希望を叶えるために、よく話を聴き、寄り添うこと、社会福祉法人十字の園の職員としての働きそのものが理念の実践に繋がっていることだと思いました。

基調講演、各施設拠点発表と一日、短い時間でしたが、大きな学びを得る貴重な機会となりました。

基調講演は桜美林大学健康福祉学群社会福祉専修教授、久松信夫氏をお迎えし、『その人』に関心を持ちつづける』と題して、ご講演をいただきました。久松先生は、介護職員や相談員、ケアマネジャーというご経験もあることから、事例や実際の体験談などを交え、大変わかりやすく、お話をしてくださいました。

各施設・拠点の発表については、お忙しい中、準備を進めていただき、

まさに『コロナ禍における理念の実践』そのものであり、ご利用者の素敵な笑顔や喜び、生き生きとした生活を感じる、素晴らしい発表となりました。

当大会に携わってくださった方々、会場の設営にご協力くださった、静岡県立松崎高校の皆様には感謝申し上げます。

大会終了後、松崎十字の園の施設見学も行われました。



2023年度 第27回十字の園大会プログラム

項 目	時 間	備 考
受 付	10：00～10：30	
開会礼拝	10：00～10：50	日本基督教団松崎教会 江口充牧師
開会挨拶	10：50～11：00	松崎十字の園・オリブ 小川秀幸施設長
基調講演	11：00～12：30	桜美林大学教授 久松信夫氏
休 憩	12：30～13：30	マナによるパン販売あり
施設発表	13：30～15：10	各施設・拠点発表
質疑応答	15：10～15：20	
講 評	15：20～15：35	社会福祉法人十字の園 鈴木淳司理事長
次回アナウンス	15：35～11：40	浜松十字の園 宮島克利施設長
閉会挨拶	15：40～15：45	大会実行委員長 石田良

基調講演

『その人』に関心を持ちつづける』

講師 桜美林大学健康福祉学群社会福祉専修教授 久松信夫氏

講演内容 (基調講演より一部紹介)

①. 差別、偏見、孤独

常日頃から、自分はどんな状況にある人に偏見、差別の目を向けるのか自覚施設でも在宅でも、孤独の状況にある人は存在する

②. 「人」に関心を持ち続ける

話を聴く、非効率でも大切なこと、不便・面倒だけど大切なことを愚直に守る「人（他者）」に関心が持てるよう能動的に「待つ」

③. アウトリーチ的思考

相手（人）に関心があるからこそ、何らかの「支援が必要と感じる相手に関わらずにはいられない、（支援の）手を差し伸べずにはいられない

④. まとめ

まず「自分」に関心をもつ
「その人」（他者）に関心を寄せる



社会福祉の基本は相手の声に耳を傾け、心の琴線に触れること、利用者の話を聴くことを重視する。声かけ一つで「その人」の人生が変わることもある、小事をおろそかにしてはならない。

施設発表（発表順）

- 1 ---▶ 浜松地区（浜松十字の園・アドナイ館・第2アドナイ館）
その人にとっての日常を守る
～笑顔のために～
- 2 ---▶ 御殿場十字の園
『コロナ禍における理念の実践』
～『思考錯誤』～
- 3 ---▶ 伊豆高原十字の園
コロナ禍における理念の実践
～当たり前を送る事の大切さ～
- 4 ---▶ 松崎十字の園
ご利用者の喜び探し
～今すべき、求められるもの～
- 5 ---▶ 平和の杜
コロナ禍であっても笑顔をたやさずに！
～垣根をこえて～



十字の園大会を終えて

今回4年ぶりに参集形式の十字の園大会を開催することができ、本当にうれしく思います。久松先生の講演では、ご利用者との関わり方について学び、日々の業務について、今一度再確認できたと思います。各施設・拠点発表については、コロナ禍においても、ご利用者を中心とした関りをもつことができおり、理念の実践に繋がっていると共有できたと思います。

秋の花火大会

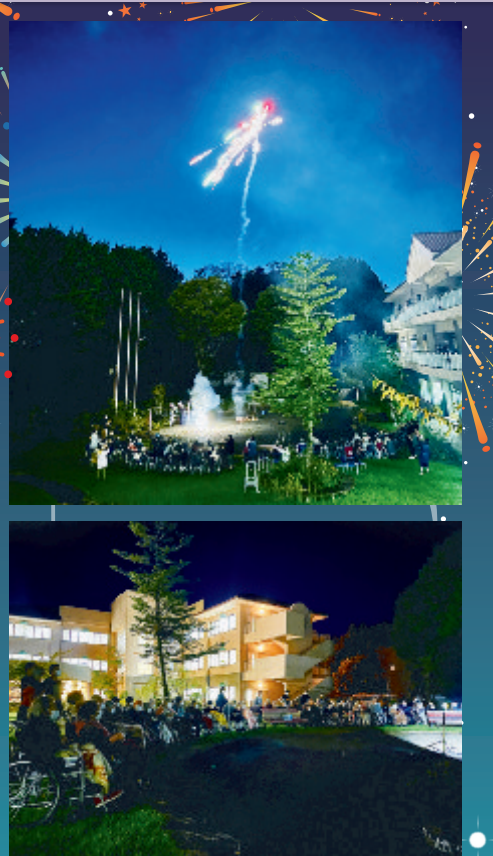
2023年10月6日（金）に秋の花火大会を開催いたしました。

本来は7月に行く予定だった、夕涼み会がコロナの影響で中止となり夕涼み会で打ち上げる予定だった花火がもったいないので秋の花火大会という形で使わせていただきました。

御殿場市はいまだコロナ感染者が多い為、ご家族の皆様や外部ボランティアなどはお呼びせず、ご利用者と職員のみで開催いたしました。秋の肌寒さの中、防寒をしっかりと皆さんで中庭に集まり約3万円分の市販の打ち上げ花火と噴き上げ花火を贅沢に使い、ご利用者と職員で花火を眺め楽しむことが出来ました。

ご利用者からはとても好評で「次はいつやるの～?」「とても楽しかった」とお言葉を頂き、職員一同とても嬉しい1日となりました。

来年こそはご家族や外部ボランティア、地域の方々をお招きし御殿場十字の園の夕涼み会として成功することができればと願っております。



くつろぎの家

豊かな自然の中でゆったりと”くつろいだ”時間を過ごしています。（さすが”くつろぎの家”）毎月の誕生会ではギターの音色！くつろぎ時間からワクワクタイムに！演奏に合わせて歌を唄っておおいに盛り上がります。また、お祝いのお菓子も自分達で皆と一緒に作って食べて楽しい時間を共有しています。



午前中は趣味の時間！編み物、縫い物、ナンプレ、ジグソーパズル、想い思いに挑戦です。集中して真剣な姿は、皆さん超かっこいいですね！そんな手先の器用な皆さんと、更に指先、頭を使ってトレーニングもかねて、季節に合う室内装飾作りをしています。

もう直ぐクリスマス。卓上のクリスマスツリーを作りながら、和気あいあいとおしゃべりも弾んでいます。



戦争体験語り部に行ってきました

9月27日（水）浜松市立気賀小学校に戦争体験語り部に行ってきました。対象者は小学3年生、3クラス90名。アドナイ館からは入居者12名、職員及び元職員7名の計19名が参加しました。



この度の交わりは、子供たちのみならず、職員も戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて考えることができ貴重なひと時となりました。

最初に登壇者2名が戦争体験を語り、その後、グループに分かれ子供たちと交流の場を持ちました。



また、普段の生活からは知り得ない入居者のライフストーリーが伺え知れ、とても有意義な場となりました。



STAFF INTRODUCTION

VOICE

Introduce the face of the staff

Q 十字の園に就職しようと思った理由は？

まったくの別業界からの転職でしたが、伊豆高原十字の園に1ヶ月実習にきて、職員の方の温かい言葉と、穏やかに生活されている入居者の方を感じ、私も一緒に働いてみたいと思ったからです。

Q 十字の園で働いてみて感じたことは？

福利厚生がしっかりしている。昇給など、頑張ったことが評価されることは働き甲斐があります。

Q 仕事をするうえで大事にしていることは何ですか？

常に笑顔忘れずに。

Q 休日の過ごし方は？

子供（娘と息子）とお出かけ。

Q いつも支えてくれる家族に一言

福祉の仕事に理解ある家族で救われています。いつもありがとう！



TETSUYA INABA

STAFF File.10

いなば てつや

稲葉 哲哉

平成25年11月11日入社（勤続10年）

生活相談室

生活支援室3階主任兼生活相談員

好きなこと：家族で出かけること

嫌いなこと：早起き

勤続15年

田中 麻貴	浜松十字の園	池田 瑠美	御殿場十字の園	松本 麻理子	松崎十字の園
加茂 眞理	浜松十字の園	石野田 文和	伊豆高原十字の園	齋藤 喜代子	松崎十字の園
長谷川 理江子	浜松十字の園	斎藤 匡紀	松崎十字の園	菊地 理恵	松崎十字の園
内村 一俊	御殿場十字の園	吉田 勇	松崎十字の園	田中 政義	アドナイ館

勤続10年

宮道 利恵	浜松十字の園	稲葉 美乃	伊豆高原十字の園	渡邊 誠	松崎十字の園
山崎 淳司	浜松十字の園	白倉 美咲	伊豆高原十字の園	船津 ゆりさ	松崎十字の園
柴田 祐子	浜松十字の園	小松 忠則	伊豆高原十字の園	古橋 径子	アドナイ館
砺波 重夫	御殿場十字の園	青柳 貴乃	伊豆高原十字の園	鈴木 恭代	第2アドナイ館
中村 隆子	御殿場十字の園	菊間 和子	伊東市立養護老人ホーム	今田 恵子	第2アドナイ館
鈴木 容子	伊豆高原十字の園	福本 智博	松崎十字の園		
鈴木 一美	伊豆高原十字の園	島田 英輔	松崎十字の園		

永年勤続
おめでとうございます。

永年勤続者表彰

Long-term service Awards

第2アドナイ館

40年

三輪 真理子

永年勤続表彰の記念として五年毎に玄関マットを交換している。それもウールやシルクのものを選ぶ。

疲れたからだでヨッコイショと玄関の上がり框に足を乗せ「今日も一日がんばったね」と自分をねぎらってやる。

いろいろあった四二年。導かれ、守られて今日ある事に感謝。

浜松十字の園

30年

北村 さち代

この度、勤続30年と還暦を迎え、十字の園で長く働くことができました。たとえ病気で休んだり、腰・肩の痛みがあり弱音をはいても、上司や職場の仲間の励ましがああり、ともに支え合いながら続けてこれたんだと思います。

時には、お年寄りの笑顔が…家族に逢いたいと泣き笑いされる表情が見れ、嬉しく思う。

私自身もまだまだ頑張る、頑張れると一息一息入れながら仕事に励んでいきたいです。

浜松十字の園

30年

伊藤 潔人

私が、十字の園で三十年も働く事は想像すらしませんでした。

三十年の間に様々な御利用者様との出会いと別れを経験しました。

ここまで続けることが出来たのは、日々のケアを終った後に御利用者様からの「ありがとう」の一言を頂いた事です。感謝の言葉が私を元気付ける源です。

これからも日々、精進いたします。

浜松十字の園

25年

宮島 克利

勤続25年の表彰を受け「時」について考えますと、その流れの速さに驚くとともに、これまでの困難な時、嬉しい時、出会いの時、別れの時、様々な時が尊く大切な時であったことを思います。改めて、これまで共に過ごしてくださった皆さまに感謝申し上げます。これからもこの思いを持ち続け努力してまいります。

御殿場十字の園

25年

天野 繭香

伊東市出身で伊豆高原で働くと思っていた私ですが、縁あって御殿場十字の園で働かせていただいております。長く働いてきていろいろなことがありましたが、同期や同僚に恵まれ御殿場に根付くことが出来ました。私の思いは入社当時と変わらず、ご利用者やご家族の皆様から「あなたと出逢えて良かった」と思っていただけよう働いていく事です。これからもこの思いを持ち続け努力してまいります。

御殿場十字の園

25年

河合 美代子

前職がホテル勤務で、そこで障害者で一人旅をしている方と触れ合ったのがきっかけで福祉業界に興味を持ち、十字の園に就職して30年。思った以上に大変な仕事でしたがそれ以上にやりがいを感じられることが多く、ここまで続けることが出来たと思います。私にとっての福祉の魅力は「人とのふれあい」です。これからも、ご利用者の皆様とともに歩み、ふれあいを大事にしていきたいと思っています。

御殿場十字の園

25年

小宮山 香名

あれから何十年……。常に一期一会の気持ちで接してたくさんの方に出会えたことが私にとっての想いでエピソードです。



浜松十字の園

20年

溝口 真紀

浜松十字の園

20年

立井 里奈

浜松十字の園

20年

中川 典子

御殿場十字の園

20年

渡邊 直美

御殿場十字の園

20年

高橋 雅昭

御殿場十字の園

20年

板橋 君江

御殿場十字の園

20年

池谷 洋子

御殿場十字の園

20年

山本 靖

御殿場十字の園

20年

勝俣 和也

御殿場十字の園

20年

井上 政江

松崎十字の園

20年

宮本 節子

松崎十字の園

20年

菊地 愛子

第2アドナイ館

20年

新屋 瑞恵



ローカルフィリピン料理 「パラボック (Palabok)」

今回は御殿場十字の園新人職員のメイさんに母国料理を教えてもらいました。
メイさんはフィリピンから日本に来て8年くらいで日本語もとても上手です。今でも日本語をアニメとドラマを観て勉強中との事。好きなアニメは最近流行りの呪術廻戦と僕のヒーローアカデミアだそうです。ドラマは俳優の山崎賢人さんが出ていればとりあえず観るそうです。
そんな意外とミスターなメイさんが教えてくれるフィリピン料理はこちら。



本来は何種類もの調味料でソースを作りますが、本場の味を伝えるためにパラボックの素を使ったレシピを紹介します。

【作り方】

- ① 水に玉子、塩（分量外）を入れ火にかける。15分後取り出す。しっかり火を通したゆで卵にする。
- ② ニンニクをみじん切りにする。
- ③ 春雨は戻しておく。
- ④ パラボックの素は水に溶いてだまにならないようにしておく。
- ⑤ フライパンに油を敷いて、ニンニクを炒め香りを出す。
- ⑥ 食べやすい大きさに切ったイカ、薄切りにした玉ねぎをフライパンに加え炒める。
- ⑦ 火が通ったら④を加えて煮詰める。
- ⑧ 春雨に⑦をかけて、スライスゆで卵を添えて完成。

パラボックとは、ゆでた春雨麺に野菜や魚を煮込んだあんかけをかけたフィリピンの伝統料理です。

エビのcockが美味しい！ローカルフィリピン料理パラボック (Palabok) | danna-meshi : 参照



法人中堅職員研修Ⅱ 研修報告

（中堅職員研修Ⅱとは採用6～10年目位の方対象の研修）

平和の杜

2023年7月7日、中堅職員研修Ⅱが伊豆高原十字の園で行われました。従前どおりの集合型研修で山本施設長の礼拝から始まり中堅職員の立場でのサーバントリーダーシップを学びました。

グループワークでは、私たちの行動指針の策定（中堅職員としてこれから何を大切に、どのような事に留意すべきか）について話し合い発表しました。それぞれのグループの個性が出ていて楽しかったです。

十字の園という船に入居者を乗せ、職員は安心安全な航海（生活）が送れるよう目指し連携して役割をはたしている素晴らしさに、気付く事が出来ました。この研修を通して交流を持てた事は大きな刺激となり、自分の施設における立場、役割を再確認出来ました。



社会福祉法人十字の園には複数の拠点があり、地域の皆様の様々な福祉ニーズにお応えできるよう活動しています。その活動の内容や情報を、多くの方に、的確に、分かりやすく、そして親しみやすくお伝えするため、ホームページやSNSをどんどん活用していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（いしの）

QRコードから探してみてね

